

日本学習社会学会第14回大会

(1) 大会期間と会場

期間 2017年9月9日(土)、10日(日)

会場 国士舘大学世田谷キャンパス(梅ヶ丘校舎)

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

E-mail: irisawa@kokushikan.ac.jp

(2) 日程(一部変更の可能性もあります)

各種委員会・理事会	
9月9日(土) 会場: 国士舘大学世田谷キャンパス34号館	
10:00~11:00	年報編集委員会 [A410 教室] 研究推進委員会 [A404 教室] 国際交流委員会 [A405 教室]
11:00~12:30	全国理事会 [B304 教室]
学会大会1日目	
9月9日(土) 会場: 国士舘大学世田谷キャンパス34号館	
12:30~	大会受付・学会受付
13:00~14:30	自由研究発表 分科会Ⅰ [A410 教室] 分科会Ⅱ [A411 教室] 分科会Ⅲ [A412 教室] 分科会Ⅳ [A413 教室] (休憩)
14:45~16:45	課題研究Ⅰ: ナショナルカリキュラムと先住民族言語・ 文化学習 [A410 教室] 課題研究Ⅱ: 地域と学校の連携と「社会に開かれた教育 課程」 [A411 教室] (休憩)
17:00~17:50	総会 [B304 教室] (休憩)
18:00~19:30	情報交換会 [A棟10階スカイラウンジ]

学会大会 2 日目	
9 月 10 日 (日) 会場：国士舘大学世田谷キャンパス 34 号館	
9:00～ 9:30～12:00	大会受付・学会受付 自由研究発表 分科会Ⅴ〔A410 教室〕 分科会Ⅵ〔A411 教室〕 分科会Ⅶ〔A412 教室〕 分科会Ⅷ〔A413 教室〕
12:00～13:00	(昼食休憩)
13:00～15:30	公開シンポジウム：防災教育と学校・地域の連携 ～国士舘大学防災・救急救助総合研究所の実践から～ 〔B304 教室〕

(3) 参加費用

一般会員 2,000 円 (正会員・臨時会員)

院生・学生会員 1,000 円 (院生・学生)

情報交換会 (懇親会) 4,000 円 (正会員・学生会員)

*公開シンポジウムのみの参加は無料です。

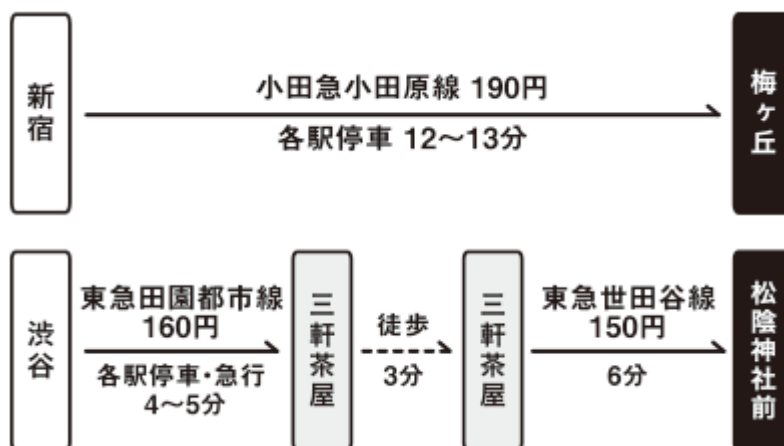
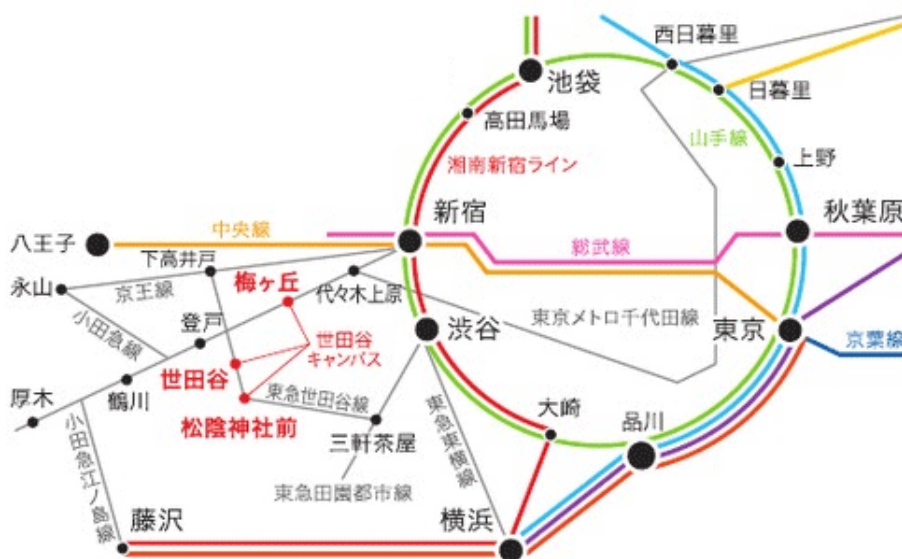
(4) 会場への交通機関

交 通	○小田急線「梅ヶ丘」駅	徒歩	大学まで 約9分
	○東急世田谷線 「松陰神社前駅」または 「世田谷駅」	徒歩	大学まで 約6分
	○JR渋谷駅西口バスターミナル 30 番乗り場	バス	「渋 52 世田谷区民会館」バスで終点下車、 徒歩1分

(5) 昼食について

大会期間中、学食の営業や弁当の販売はございません。各自でご用意ください。

国士舘大学世田谷キャンパス：東京都世田谷区世田谷4丁目28-1



※詳しくは国士舘大学のホームページ「アクセス案内」をご覧ください。

<https://www.kokushikan.ac.jp/access/setagaya/>

※ご注意ください

- 2日目の9月10日(日)は、学内で一部通行できない箇所があります。
ご来校の際は、小田急線をご利用の上、梅ヶ丘駅下車で会場までお越しください。

(6) 近隣ホテルのご案内

- *各自でご予約ください。
- *都内に宿泊を希望される方は、新宿近辺が便利です。

自由研究発表 I

コミュニティ・スクール

A 4 1 0 教室

9月9日（土） 13：00～14：30

司会 高橋 興（青森中央学院大学）

【1】 13:00～13:25

地域とともにある学校づくりの一考察」

— 栃木市におけるコミュニティ・スクールの導入を巡って—

鈴木 廣志（栃木市立大平中央小学校）

【2】 13:25～13:50

地域の連携による活動を通じた両者の葛藤生成過程の研究

— 学校支援活動に対する主体性への認識の差異に着目して—

中野 綾香（東京大学大学院）

【3】 13:50～14:15

学校支援活動における学校運営協議会の役割に関する検討

— 学校運営協議会の継続停止事例に着目して—

神定 舞（元筑波大学大学院）

14:15～14:30

全体討議

自由研究発表Ⅱ

メディア・大学教育

A 4 1 1 教室

9月9日（土） 13：00～14：30

司会 赤尾 勝己（関西大学）

【1】 13:00～13:25

学校安全に関するメディアの関心と動向

西村 吉弘（国立教育政策研究所）

【2】 13:25～13:50

テキストマイニングを用いた活動報告会等参加者アンケート調査結果の分析
— 稚内北星学園大学地（知）の拠点整備事業は地域住民の意識に変化を与えたか？—

石橋 豊之（稚内北星学園大学）

【3】 13:50～14:15

私立大学の教育理念とアイデンティティ構築

— 『夜雨摘録』内容分析を中心にして—

○大庭 由子（安田女子大学）

中島 正明（安田女子大学）

14:15～14:30

全体討議

自由研究発表Ⅲ

教育行政・学校経営

A 4 1 2 教室

9月9日（土） 13：00～14：30

司会 堀井 啓幸 （常葉大学）

【1】 13:00～13:25

わが国の地方学力調査体制の歴史的構造
—関東以北の16都道府県を中心に—

北野 秋男（日本大学）

【2】 13:25～13:50

学校カリキュラムを支援する教育行政の実践的施策
—カリキュラムセンター機能の充実と強化を中心に—

梶 輝行（横浜薬科大学）

【3】 13:50～14:15

学校経営の活性化と効率化を図る学校評価システムの改善方向について
—教育委員会による第三者評価の導入と活用を中心に—

吉田 佳恵（独立行政法人大学入試センター）

14:15～14:30

全体討議

自由研究発表Ⅳ

キャリア教育・女子教育

A 4 1 3 教室

9月9日（土） 13：00～14：30

司会 平井 貴美代（山梨大学）

【1】 13:00～13:25

学校と地域の連携でつくるキャリア教育に関する一考察

柴田 彩千子（東京学芸大学）

【2】 13:25～13:50

企業連携型教育の意義と課題に関する考察

林田 由那（早稲田大学）

【3】 13:50～14:15

実科高等女学校の郡立・県立移管をめぐる地域抗争

—新潟県佐渡郡を事例として—

富士原 雅弘（日本大学）

14：15～14：30

全体討議

課題研究 I

ナショナルカリキュラムと先住民族言語・文化学習

A 4 1 0 教室

9月9日（土） 14:45～16:45

国連総会で採択された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（2007年）など、諸民族の言語・文化権の権利回復を目指す動きが広がっている。とりわけ民族のアイデンティティ形成の基盤となる民族独自の言語・文化による教育を受ける権利の保障（14条）においては、日本のアイヌ、琉球・沖縄などの先住民族に対する法的な枠組み構築の必要性が期待されている。本課題研究では、オーストラリアにおける言語の地位の平等化に関して造詣の深い3名の専門家を招聘し、主にアボリジニの言語の平等化を目指した取組みモデルに関する知見を得ることを目的のひとつとする。その上で、危機に瀕する先住・少数民族の言語の維持・復興について考える機会を得ながら、日本の現状に即してそれらの問題関心ならびに考察が深められることを企図する。

報告1：ジーン・フリーア（Jeane Freer）（モナッシュ大学）

報告2：ピーター・アンダーソン（Peter Anderson）（ニューサウスウェールズ大学）

報告3：ゼーン・マ・レーア（Zane Ma Rhea）（モナッシュ大学）

司会：佐藤千津（東京学芸大学）

課題研究Ⅱ

地域と学校の連携と「社会に開かれた教育課程」

A 4 1 1 教室

9月9日（土） 14:45～16:45

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」がキーワードの一つとなっている。社会に開かれた教育課程は、学校教育を学校のなかだけで完結させるのではなく、その過程、および出口において社会との関連性を強めていくことを意味するものである。学校はこれまで以上に地域をはじめとした学校外の社会との連携のなかで「真正」の教育活動を行っていくとともに、子どもたちに社会生活で活用できる実践的な能力を育成することが求められているといえるだろう。

本課題研究で議論を深めたいのは、この社会に開かれた教育課程において、地域と学校の連携がどのように活かされるのか、その可能性を検討することである。地域と学校の連携を通じて児童生徒の学習の質が高まるのか、それとも形式的な体験にとどまるのか。どのような点に留意することがより良い教育実践をもたらし、また地域と学校の連携を豊かにするのかを、理論的・実践的に追究したいと考えている。

報告1：浅谷直樹（茅ヶ崎市立浜須賀小学校）、大國翔太（茅ヶ崎市立浜須賀小学校）、
栗原幸正（高崎健康福祉大学）

報告2：大野順子（摂南大学）

報告3：古田雄一（大阪国際大学）

自由研究発表Ⅴ

成人教育・生涯学習

A 4 1 0 教室

9月10日（日） 9：30～12：00

司会 森岡 修一（大妻女子大学）

【1】 9:30～9:55

シュタイナー学校の理科教育

本間 夏海（立教女学院短期大学）

【2】 9:55～10:20

生涯学習の視点で捉える宇宙教育活動

桜庭 望（宇宙航空研究開発機構）

【3】 10:20～10:45

伝統的な日本の食文化を継承するための生涯学習の可能性の一考察
—青年期から成人期に移行する大学生を事例の中心として—

手塚 貴子（日本大学大学院）

【4】 10:45～11:10

成人教育学における人的能力開発（HRD）の位置づけに関する一考察

堀本 麻由子（東海大学）

11:10～12:00

全体討議

自由研究発表Ⅵ

社会教育・ボランティア

A 4 1 1 教室

9月10日（日） 9：30～12：00

司会 川野 佐一郎（早稲田大学非常勤）

【1】 9:30～9:55

沖縄における南島村内法と社会教育

井谷 泰彦（国士舘大学・非常勤）

【2】 9:55～10:20

観光教育とアイデンティティ構築の関係

—沖縄における出前授業を事例として—

大庭 由子（安田女子大学）

【3】 10:20～10:45

学校教育ボランティアの資質向上につながる学びの循環について

藤田 清子（日本女子大学学術研究員）

【4】 10:45～11:10

内発的復興を視野に入れた災害ボランティアコーディネーションシステムの構築

—平成27年関東・東北豪雨災害における市民活動支援NPOの活動に注目して—

土崎 雄祐（宇都宮大学）

11:10～12:00

全体討議

自由研究発表Ⅶ

学習支援・国際教育

A 4 1 2 教室

9月10日（日）9：30～12：00

司会 浅野 秀重（金沢大学）

【1】9:30～9:55

言語障害児支援の歴史における北海道言語障害児教育研究協議会の展開過程とその
特質—「専門職の学習共同体」概念による分析—

田中 謙（山梨県立大学）

【2】9:55～10:20

認知症介護指導者養成研修の実践的展開
—コミュニティ学習支援の観点から—

西原 亜矢子（新潟大学）

【3】10:20～10:45

自治体主導型学習支援事業の効果と課題
—教育委員会主導の事例を通して—

佐久間 邦友（郡山女子大学）

【4】10:45～11:10

パッケージ型教育プログラムに対する学校現場の受容

若槻 健（関西大学）

【5】11:10～11:35

現代中国における農民工子女教育問題について

張 鵬（早稲田大学）

11:35～12:00

全体討議

自由研究発表Ⅷ

地域連携・職業教育

A 4 1 3 教室

9月10日（日） 9：30～12：00

司会 坂内 夏子（早稲田大学）

【1】 9:30～9:55

大学地域連携活動広報誌の制作を通じた大学や地域の魅力発見・情報発信

権田 恭子（新潟産業大学）

【2】 9:55～10:20

学校・家庭・地域連携が家庭環境の厳しい子どもに与える影響

大林 正史（鳴門教育大学）

【3】 10:20～10:45

地域連携教員の地域の位置づけに対する意識の変化

西村 彩恵（姫路大学非常勤）

【4】 10:45～11:10

国鉄の看護教育

—永井敏枝の事績を中心にして—

長谷川晴通（常葉大学科目等履修生）

11:10～12:00

全体討議

公開シンポジウム

場所：34号館 B304教室

9月10日（日）13:00～15:30

防災教育と学校・地域の連携

— 国士舘大学防災・救急救助総合研究所の実践から —

国士舘大学防災・救急救助総合研究所は、設立以来「自然災害、人為災害、特殊災害等について知識を身につけるとともに、地震、津波、火山噴火、河川の氾濫、集中豪雨等のメカニズムを理解する。また、災害時に役立つ、消火法、救助法、応急手当、搬送法等を学び、加えて、災害に関連した心の病に対する心理学的な対処法を身につける」防災総合教育を推進してきました。

本学では、研究所の取り組みを大学教育に活かし、現在は全学生を対象に防災総合基礎教育を開講し、防災に対する知識と技術を身につける教育を実践しています。このような教育を受けた学生は防災ボランティアとして東日本大震災や熊本地震、鳥取県中部地震等々の被害を受けた地域で積極的に災害支援活動を行い全国から注目されてきています。その結果、全国の学校、地域から防災教育指導の要請を受け研究所では各地に指導に赴いております。

一方、災害救助のみではなく、予防対応と救急救命にも対応し、東京シティマラソンや全国各地で行われるイベントに救護隊を派遣し、救命に実績を上げてきました。

本シンポジウムは、国士舘大学防災・救急救助総合研究所が行っている研究と実践を披露していただき、さらには地域学習として活かしていくために、本機会を通して会員、地域住民の皆様と防災教育の在り方、学校と・地域の連携について考えていきたいと思えます。

ぜひともご参加ください。

なお、9月9日土曜日は、防災教育および防災訓練が行われています。学会参加者の皆さんにぜひご覧いただきたいと存じます。

コーディネーター：入澤充（国士舘大学法学部教授）

報告1：田中秀治（国士舘大学体育学部スポーツ医科学科教授・
国士舘大学防災・救急救助総合研究所）

報告2：月ヶ瀬恭子（国士舘大学防災・救急救助総合研究所講師）

報告3：世田谷区若林地区防災と連携、東京都立千歳丘高校での実践